



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月30日

上場取引所 東 大

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	155,025	0.7	9,160	△5.8	9,245	△7.5	4,826	14.2
24年3月期第3四半期	153,915	4.0	9,725	4.9	9,999	7.5	4,224	△11.2

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 5,466百万円 (111.2%) 24年3月期第3四半期 2,588百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	23.66	23.66
24年3月期第3四半期	20.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	207,248	109,746	46.6
24年3月期	197,437	107,659	48.0

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 96,476百万円 24年3月期 94,783百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	9.00	9.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	202,200	1.8	9,500	2.5	9,650	0.3	4,600	15.1	22.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	217,699,743 株	24年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	15,094,318 株	24年3月期	12,277,683 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	204,014,617 株	24年3月期3Q	207,207,093 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成24年11月5日発表の連結業績予想の見直しは行っていません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9

○ 第3四半期決算短信補足資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要が下支えしているものの、長引く円高や欧州債務問題に加え新興国経済の減速などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。そのなかで、新政権の政策への期待により、年末に向けて株価の上昇、円高の是正がみられましたが、これらが一過性のものか継続的なものかは予断を許しません。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する」ことを基本方針とする「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を構築することで更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒精事業においても顧客企業のニーズにきめ細かく対応した商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、海外における日本食材卸事業については、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業の拡大、成長を加速させることを目指しております。

遺伝子工学研究事業では、市場の伸びが期待できるリアルタイムPCRや細胞生物学分野へ積極的に新製品・サービスを提供するとともに、遺伝子医療事業では、遺伝子治療、細胞医療の臨床開発を積極的に推進しております。また健康食品事業では、日本古来の食品素材の機能性に着目した健康食品の開発、販売により事業拡大に努めております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比100.7%の155,025百万円となりました。売上原価は原材料価格の上昇もあり、前年同期比101.4%の94,618百万円となりましたので、売上総利益は同99.6%の60,407百万円となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費の増加などにより前年同期比100.7%の51,246百万円となりましたので、営業利益は同94.2%の9,160百万円となりました。

営業外損益では、社債発行に伴う社債発行費などの営業外費用が増加いたしましたので、経常利益も前年同期比92.5%の9,245百万円となりました。

特別損益では、退職給付制度改定益345百万円を計上したことや、前年同期にあった災害による損失783百万円がなくなったことなどにより税金等調整前四半期純利益は前年同期比97.5%の8,614百万円となりました。法人税等合計では法人税率の引き下げや、前年第3四半期末に税率変更に伴う繰延税金資産の取崩しがあったことにより法人税費用が減少し、四半期純利益は前年同期比114.2%の4,826百万円となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

(宝酒造グループ)

当第3四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は、新たに連結子会社とした工学エンジニアリング株式会社の売上が加わったことにより前年同期比100.5%の138,367百万円と僅かに増収となりました。

品種別には、主力の焼酎では本格焼酎<黒よかいち>は好調に推移しましたが、その他は全般に低調であったことにより減収となり、ソフトアルコール飲料も<焼酎ハイボール>は引き続き順調に推移いたしました。前期の震災に起因する特殊要因の反動により<直搾り>などが減少したため、減収となりました。一方清酒は、<松竹梅「天」>や、スパークリング清酒<松竹梅白壁蔵「澗（みお）」>などが好調に推移するとともに、収納性に優れ、ゴミ捨ても簡便なパウチパック容器入り商品のラインナップを強化したことなどにより増収となりました。その他酒類や、本みりんを含めた調味料、原料用アルコールなども総じて増収となりました。

利益面では、原材料価格の上昇などにより、売上高の増加以上に売上原価が増加したため、売上総利益は前年同期比99.0%の51,372百万円となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費が増加したものの、管理費の削減などにより、前年同期比99.9%の43,789百万円となりました。

以上の結果、当セグメントの営業利益は前年同期比94.1%の7,582百万円となりました。

(タカラバイオグループ)

当第3四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は、遺伝子工学研究事業における研究用試薬が前年同期を上回り、遺伝子医療事業も好調に推移したこと等により、前年同期比103.5%の13,916百万円となりました。

遺伝子工学研究事業においては、研究用試薬の売上が円高の影響を受けたものの増加し、理化学機器の減少を補い増収となりました。遺伝子医療事業では、リンパ球培養用培地・バッグ等の売上が好調に推移し増収となりました。医食品バイオ事業では、健康食品およびキノコ関連製品の売上がいずれも前年同期比で減少いたしましたので減収となりました。

利益面では、売上原価が売上高の増加に伴って増加したため、売上総利益は前年同期比103.6%の7,640百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費および研究開発費等の増加により前年同期比106.6%の6,932百万円となり、売上総利益の増加額を上回りました。

以上の結果、当セグメントの営業利益は前年同期比81.1%の707百万円となりました。

(宝ヘルスケア)

当第3四半期連結累計期間の当セグメントの売上高は、健康食品はほぼ前期並みとなりましたが、茶飲料PB供給事業の売上が大幅に減少したため、前年同期比84.4%の1,612百万円となりました。

利益面では、売上構成の変化により原価率は低下いたしました。売上総利益は前年同期比89.5%の598百万円となりました。当セグメントは、引き続き事業育成のための広告宣伝費等を先行的に投下しているため、22百万円の営業損失となりました。

(その他)

報告セグメント以外の「その他」のセグメントの売上高は前年同期比97.9%の5,654百万円となり、営業利益は同117.5%の136百万円となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	前年同期比
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ			
焼酎	57,605	55,734	96.8
清酒	16,813	17,781	105.8
ソフトアルコール飲料	21,581	20,010	92.7
その他酒類	7,940	8,443	106.3
酒類計	103,941	101,970	98.1
本みりん	11,879	11,834	99.6
その他調味料	5,846	6,208	106.2
調味料計	17,725	18,043	101.8
原料用アルコール等	4,927	5,141	104.3
物流	6,716	8,549	127.3
その他	4,359	4,663	107.0
計	137,671	138,367	100.5
タカラバイオグループ	13,443	13,916	103.5
宝ヘルスケア	1,910	1,612	84.4
その他	5,775	5,654	97.9
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△4,884	△4,525	—
合計	153,915	155,025	100.7

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は207,248百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,811百万円増加いたしました。流動資産は、現金及び預金の減少1,494百万円や余資の運用としての有価証券の減少4,049百万円などがありました。例年の年末繁忙期による受取手形及び売掛金の増加12,051百万円により、8,304百万円の増加となりました。固定資産は、有形固定資産の増加489百万円や、投資有価証券の増加1,606百万円などにより1,507百万円の増加となりました。

負債合計は97,502百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,724百万円増加いたしました。流動負債は、未払酒税の増加2,932百万円などにより、3,463百万円の増加となりました。固定負債は社債の発行10,000百万円、償還5,000百万円などにより4,261百万円の増加となりました。

純資産合計は、四半期純利益4,826百万円及び配当支払1,851百万円により利益剰余金が2,975百万円増加しましたので、株主還元策としての自己株式の取得等による自己株式の増加（純資産に対してはマイナス）1,575百万円ありましたが前連結会計年度末に比べ2,086百万円増加し、109,746百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期業績予想につきましては、平成24年11月5日に売上高のみ期初予想の修正を行っております。当第3四半期が終了した時点でやや修正予想を下回る進捗であります。その乖離は軽微であり、平成24年11月5日に公表した連結業績予想は見直しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び一部の国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産のうち、改正前の法人税法に規定する減価償却の方法を採用していたものについて、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,843	29,348
受取手形及び売掛金	50,721	62,773
有価証券	15,660	11,611
商品及び製品	20,847	20,832
仕掛品	886	1,637
原材料及び貯蔵品	2,747	3,098
その他	4,442	5,161
貸倒引当金	△71	△81
流動資産合計	126,078	134,382
固定資産		
有形固定資産	41,996	42,486
無形固定資産		
のれん	3,531	3,396
その他	1,704	1,605
無形固定資産合計	5,236	5,002
投資その他の資産		
投資有価証券	18,450	20,057
その他	5,895	5,537
貸倒引当金	△219	△217
投資その他の資産合計	24,126	25,377
固定資産合計	71,359	72,866
資産合計	197,437	207,248
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,976	13,538
短期借入金	5,018	5,020
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払酒税	10,589	13,522
未払費用	3,977	4,973
未払法人税等	2,207	2,195
販売促進引当金	1,708	2,087
その他の引当金	2,028	1,154
その他	6,740	7,218
流動負債合計	51,247	54,710
固定負債		
社債	20,000	25,000
長期借入金	496	475
退職給付引当金	9,625	8,910
長期預り金	5,881	5,667
その他	2,527	2,738
固定負債合計	38,530	42,791
負債合計	89,777	97,502

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,195	3,195
利益剰余金	88,012	90,987
自己株式	△6,922	△8,497
株主資本合計	97,512	98,912
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,805	2,950
繰延ヘッジ損益	△17	15
為替換算調整勘定	△5,516	△5,401
その他の包括利益累計額合計	△2,728	△2,435
少数株主持分	12,876	13,269
純資産合計	107,659	109,746
負債純資産合計	197,437	207,248

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	153,915	155,025
売上原価	93,282	94,618
売上総利益	60,633	60,407
販売費及び一般管理費	50,907	51,246
営業利益	9,725	9,160
営業外収益		
受取配当金	359	348
その他	407	369
営業外収益合計	766	717
営業外費用		
支払利息	379	400
その他	113	233
営業外費用合計	492	633
経常利益	9,999	9,245
特別利益		
固定資産売却益	213	179
退職給付制度改定益	—	345
移転補償金	193	—
投資有価証券売却益	2	—
その他	14	142
特別利益合計	424	666
特別損失		
固定資産除売却損	299	528
投資有価証券評価損	415	375
厚生年金基金脱退拠出金	—	260
災害による損失	783	—
その他	94	133
特別損失合計	1,592	1,297
税金等調整前四半期純利益	8,831	8,614
法人税、住民税及び事業税	3,553	3,287
法人税等調整額	806	189
法人税等合計	4,360	3,477
少数株主損益調整前四半期純利益	4,471	5,137
少数株主利益	246	311
四半期純利益	4,224	4,826

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,471	5,137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△911	143
繰延ヘッジ損益	△19	33
為替換算調整勘定	△923	152
持分法適用会社に対する持分相当額	△28	△0
その他の包括利益合計	△1,882	329
四半期包括利益	2,588	5,466
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,536	5,119
少数株主に係る四半期包括利益	51	347

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	137,052	12,977	1,906	151,935	1,723	153,659	256	153,915
セグメント間の内部 売上高又は振替高	618	465	3	1,088	4,052	5,140	△5,140	—
計	137,671	13,443	1,910	153,024	5,775	158,799	△4,884	153,915
セグメント利益又は損 失(△)	8,055	872	△87	8,840	115	8,956	769	9,725

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去84百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益685百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	137,774	13,502	1,609	152,886	1,811	154,697	327	155,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	592	413	2	1,009	3,843	4,852	△4,852	—
計	138,367	13,916	1,612	153,895	5,654	159,550	△4,525	155,025
セグメント利益又は損 失(△)	7,582	707	△22	8,267	136	8,403	757	9,160

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去89百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益667百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。